「白頭鷲の英名講座」　第５回

Spoon-bill　－スプーン状のくちばし

今までに「幅広のくちばし」、「シャベル型のくちばし」、それに「スポットのあるくちばし」等がでてきましたが、今月は“Spoon-bill”（スプーン状のくちばし）をひろってみました。面白いことに、この場合完全に和名と英名が一致して、“スプーン”を和名では“箆（へら）”と呼んでいます。

1. Spoonbill　－　ヘラサギ
2. Black-faced Spoonbill　－　クロツラヘラサギ
3. Spoon-billed Sandpiper　－　ヘラシギ

厳密に言えば“スプーン”と“へら”では、完全に一致とは言えないかも知れませんが、語呂から言っても“しゃもじ”では鳥名としてはいただけません。おそらく、その辺りの語感から“へら”を当てたものと思われます。

さて、この三種ともそう簡単にお目にかかれる代物ではないのです。その機会さえあれば一目瞭然これに違いないと断定できるのですが、なかなかその幸連に恵まれません。私も“Black-faced Spoonbill”（クロツラヘラサギ）にはあの坂東大橋でやっとのこと 1988 年 1 月 15 日にお目にかかれました。

なお、“Black-faced Spoonbill”、即ち“黒い顔をした”、または“黒い顔を持った”何々と言う表現方法は英名の表記にはごく一般的に使われます。日本語では単に名詞を列記して－黒＋顔（面）＋ヘラサギ－という形が成立します。英語では名詞のみを列記して Black Face Spoonbill としますと、何か片言めいた感じがします。そのためか、“---ed”として“---の特徴をもった”という形で形容するのです。

すでにお話をした、“Broad-billed Roller”、“Broad-billed Sandpiper”、“Spot-billed Duck”など全て同じ用法で“こうこう、こういうくちばしをした、くちばしの、または、くちばしをもった”という表現をしているのです。

次回は誰が見ても気になるあのながーいくちばしのダイシャクシギ、チュウシャクシギたちは一体どんな英名になっているんでしょう？お楽しみに！

大宮のハクトウワシ

『しらこばと』No. 106、1993年3月号より